

学生および保護者の方へ

2020年度前期・遠隔授業に関するアンケート結果を受けての本学の取組み

大同大学 学長 神保睦子

2020年度の前期は新型コロナウイルスの感染拡大による自粛要請や緊急事態宣言により、すべての授業を遠隔（自宅における学修）で実施しました。遠隔授業の実施に際しましては、学生の皆さんに大変なご負担をおかけしましたこととお詫びすると共に授業運営にご協力いただきましたことに心より感謝申し上げます。

本学では、遠隔授業の課題と成果を把握すること、また後期の授業を含めた今後の授業の在り方について検討するために、以下の期間において前期の遠隔授業等に関するアンケート調査を実施しました。

【専任教員 非常勤講師】 アンケート回答期間 8/7（金）～8/23（日）

【学 生】 アンケート回答期間： 9/1（火）～9/6（日）

本学では、今回のアンケート調査の結果を真摯に受け止め、授業の改善に加えて、大学として何ができるかを検討してきました。以下に、そのまとめをお伝えします。

1. 遠隔授業運営について

①情報提供について

遠隔授業の情報提供に関して、最も多かった要望・意見については、以下の3点でした。

□.情報提供手段の統一 □.情報が大量で確認が困難 □.最新情報更新の通知機能

授業運営に関しては、準備期間が短く、授業担当者によって、teams、ポータルサイト、eメールと情報提供手段が異なる状況が発生し、学生の皆さんを混乱させてしまったことは、大学としても大きな課題として受け止めております。今後は大学として統一した方針を固められるよう検討して参ります。

②授業の内容・課題について

遠隔授業の方法は、担当教員によって a.リアルタイム形式、b.オンデマンド形式（映像や音声配信あり）、c.オンデマンド形式（資料課題提示のみ）の3種類にて実施しました。3種類の中で、特にc.に関しては映像や音声による説明を付けて欲しいという要望が多く、読んでいるだけでは学習意欲を保つことが困難であるといった意見もみられました。教員に対するサポート体制、teamsの使用説明会の実施などを含め改善を進めていきます。授業への集中度合に対する設問では $a > b > c$ という結果が得られ、さらに、遠隔授業における学修成果の獲得感については、実験実習系科目よりも講義系科目の方が高いことが分かりました。

また、遠隔授業の内容では、課題量が多い、どの授業形態においても質問がしづらい、質問に対する回答が遅いなどの意見があり、対面での質問機会を要望する声が多くみられました。

このような結果から、後期からは実験実習科目を中心に対面授業を再開することを決め、講義系科目については、引き続き遠隔授業というハイブリッド形態をとっております。実学主義を掲げる本学では、実験実習科目を中心とした実践科目については、今後も対面式での授業運営を前提に進めて参ります。その一方で、講義科目や 세미나科目においては、学生からも教員からも今後の授業の一方式として導入することに対して肯定的な評価がみられることから、大学として遠隔授業の方針を固めたうえで、今後の導入について前向きに検討していく余地があると考えています。

③履修登録・履修ガイダンスについて

2年生以上については、既に履修登録の方法を把握していることから、遠隔での履修登録に関して特に問題もなく、むしろ肯定的な意見が多く、1年生に関しては、大学としても懸念していたとおり、操作においても登録確認においても不安であったという意見が多くみられました。

上級生については、今後も遠隔での履修登録を可能にすることを検討すると共に、1年生については、基本は対面式でのガイダンスおよび履修登録を実施するよう検討を進めていきます。

④教科書販売について

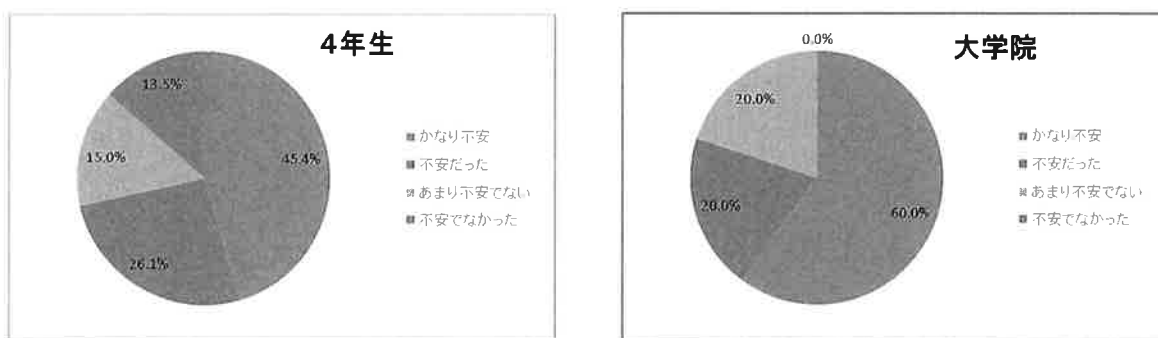
急遽、サイトを開設して教科書販売についてもネット購入としましたが、購入物の確認方法、支払方法など、多くの課題が残りました。しかし、これらの課題をクリアできれば、ネット購入そのものについては肯定的な意見も多く、大学として課題を整理して、改善に努めていきます。

2. キャリア支援について

①就職活動を行っている学部4年生・大学院2年生

「就職活動において不安になったことはありますか」という設問に対し、学部・大学院ともに約70～80%の学生が就職活動に不安をもっていると回答しました。その主な要因は、オンラインによる就職活動や企業の採用意欲の低減による求人数の減少など、主に就職環境の大きな変化であったと思われまます。

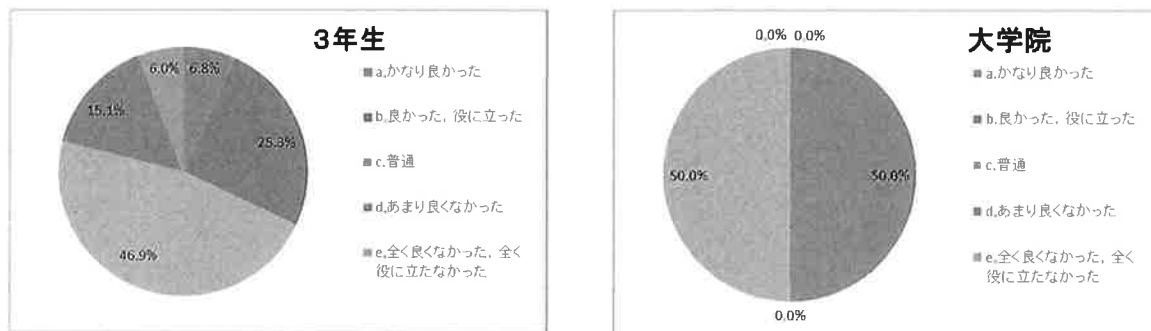
また、まわりの状況（友人の状況、企業の採用活動の状況等）がわからないなどの意見もありました。



これらの意見に対し、オンライン面接ルーム（防音室）の設置、面接機材の貸し出し、コミュニケーションツールとしてキャリアセンターLINEの導入等、ハード面の整備しております。今後も引き続き就職活動のフォローに取り組んでいきます。

②次年度の就職活動に向けて学部3年生・大学院1年生

「就職ガイダンスを遠隔で実施しましたが、いかがでしたか？」という設問に対し、普通以上の評価が大半でしたが、やはり対面でのガイダンスを希望する声もありました。



後期からは、対面での就職ガイダンスを実施すると共に、その模様をオンラインにて同時に配信しています。また、十分な感染症対策を講じながら、学内合同企業研究会も対面式にて実施しました。こらからも、学生の将来を左右する就職関連の行事については、可能な限り対面式で実施できるよう努めていきます。

3. 施設利用について

入館制限に関する質問では、「不便だった」が14.5%で、「致し方ない」「不便ではなかった」が85.5%でした。しかし、図書館の利用制限に関しては不便であったという意見もあり、大学の対応として、郵送による図書の貸出し、また、電子ブックやDB(「日経テレコン21」「日本建築学会論文等検索システム」)の学外からの利用制限の解除を実施しました。

後期の開講(9月21日)からは、館内一部施設の利用に制限はありますが、開館時間を短縮(8:45-19:00)して開館しています。また、郵送による図書の貸出しサービスは後期も継続しています。

4. 教職員とのコミュニケーションについて

質問ができない、あるいは質問をしても回答がない、どの部署に質問すれば良いか分からなかった、課題、各種提出物を郵送しても届いているかどうか不安であった、精神的な不安を直接相談できないことに不便を感じた等、コミュニケーションに関してはやはり対面式に勝るものはなく、多くの課題が残りました。

就職支援と同様に、時間制限、人数制限を設けるなどの対策を講じながら、可能な限り対面での対応を基本とすると共に、Zoomなどを活用した遠隔での個別相談にも応じられるよう体制整備を進めて参ります。

5. 部活動、委員会活動、その他課外活動の制限および学生行事(大学祭、体育大会等)の中止について

部活動や委員会に入部(入会)する方法がわからない、新入生の勧誘ができない、部室や施設が使用できず制作等ができなかった等、多くのご意見がありました。特に新入生の皆さんには大学生活において楽しみにされていたであろう、部活動や委員会活動へ加入する機会が失われてしまったことを大変申し訳なく思います。

後期になり対面にてクラブ・委員会紹介を実施し、大学より活動許可を得たクラブから、感染対策を講じたうえで活動を再開しています。また、通常は入学式直後に実施している新入生オリエンテーション合宿に代わ

る1年生の交流を目的とした学生行事の企画検討、コロナ禍でも開催できる学生行事についても検討を進めています。

6. まとめ

現在本学では対面授業と遠隔授業を併用したハイブリッド形態で後期の授業を実施しております。未だ感染の収束の見通しが立たない状況を踏まえ、学生の皆さんには今も制限のある中でのキャンパス生活を願っている状況です。今回のアンケート調査を通して、改めて教職員以上に学生のみなさんの努力とご協力のうえに遠隔授業が成り立ち、この困難な状況をなんとか乗り越えられていると感じています。その一方で、大学としては、学生のみなさんに対して十分に満足いくフォローができているとはいえない状況であることに責任を感じると共に、今回の意見をもとに今後、大学として改善に努めていきます。

最後に、皆様にとりまして、来る2021年が良い年になりますことを祈念しております。